

ISFJ2020 論文審査要綱

文責：第24期 研究室担当部

目次

1. 全体の評価	2
2. 論文評価項目	2
A 論理構成	2
B 論文としての体裁	3
C 問題意識・現状分析	3
D 先行研究	3
E 分析の枠組みと仮説の適切な設定	4
F 分析手法	4
G 分析結果	4
H 問題意識と提言の整合性	4
I 政策の効果が定性的・定量的に示されているか	4
J 政策提言の実現可能性	4
3. 論文評価基準	5
4. プレゼンテーション評価項目	5
5. 減点の基準	6

1. 全体の評価

【論文 60 点満点 + プレゼンテーション 40 点満点 = 計 100 点満点】

論文とプレゼンテーションはそれぞれ別の審査員が審査を担当します。

2. 論文評価項目

【論文体裁】 【現状分析と先行研究】 【分析（手法と結果）】 【政策提言】

	評価項目	点数（すべて 6 点満点）
A	論文全体を通して、論旨が一貫し、読者にわかりやすい説明がなされているか	
B	学術論文としての形式が整っているか。	
C	現状分析を通して、何が問題なのかを明らかにしているか。	
D	先行研究のレビューに基づいて、論文の位置づけ、独自性が述べられているか。	
E	現状分析と先行研究のレビューに基づいて、分析の枠組み、検証すべき仮説等が適切に設定されているか。	
F	分析に使用するデータ、推定方法が適切に選択されているか。	
G	分析結果が適切に解釈されているか。	
H	政策提言が分析に基づいて行われているか。	
I	政策の効果が定性的、定量的に示されているか。	
J	政策の限界や実施に当たっての問題点等が議論されているか。	

A 論理構成

論文全体として説得的な文章・構成になっているかを総合的に評価。

- (1) 論文の目的・問題意識が明記されており、それを解決するための分析をした後に、政策提言を行うといった、一貫した論理段階をきちんと踏めているか。
- (2) 予備知識がない読者にも理解できるように専門用語を乱用せず平易に解説しているか。

B 論文としての体裁

論文としての体裁が保たれているかどうかを評価。

- (1) 参考文献の引用方法が適切であり、またデータ・図表・資料の出所が明記されているか。
- (2) 誤字脱字、図表番号抜け・重複など、論文内の小さなミスはないか。

表 1

表紙	
フォーマット 1	・「タイトル」と「2019年11月」のみ表記する。 (※公正な審査のため、大学名・研究会名、執筆者名等の記入はしないで下さい)
フォーマット 2	タイトル、脚注、大学名、研究会名、執筆者名(縦に並べる)「2020年11月」を適切に表記する。
本文	
要約	3,000字以内で読みやすく執筆する。
目次	章・節(・項)の見出しを表記し、本文と対応している。
図表	・図表の欠損がない。 ・すべての図表に番号がある。 ・すべての図表にタイトルある。 ・すべての図表の出典を明記している。
参考文献	「最終論文説明書」の《表記例》通りに表記している。 <u>※特に、アクセス日を表記している。</u>
字数制限	表紙・要約・目次・参考文献を除いた、本文の字数が、 <u>15,000字以上30,000字以内</u> に収まっている。 <u>※図表は文字数に含めない。</u>
フォント	原則「MS明朝」の10.5サイズで本文を執筆。 数式は、数式エディタや数式ツールで、適切に示すこと。

C 問題意識・現状分析

- (1) 問題意識が明確に記述され、現在の日本にとって本当に重要なものであることが説得的に示されているか。
- (2) 現状分析が適切な根拠(統計的事実や事例紹介など)をもとに議論され、現状分析と問題意識が対応のとれたものになっているか。

D 先行研究

- (1) 先行研究のレビューが適切に行われているか。
- (2) 残された課題を明らかにしたうえで、論文の位置づけ・独自性が明確に示されているか。

E 分析の枠組みと仮説の適切な設定

現状分析と先行研究のレビューに基づいて、分析の枠組み、検証すべき仮説等が適切に設定されているか。

- (1) 分析の枠組みは、問題意識や論文の目的からみて適切なものになっているか。
- (2) 検証可能な形で仮説が示されているか。

F 分析手法

分析に使用するデータ、推定方法が適切に選択されているか。

- (1) 学部生が利用可能なデータの範囲で、最も適切なデータが使用されているか。あるいは、アンケート調査やフィールドワークを通して独自のデータが構築されているか。
- (2) 分析の枠組みや使用データなどに照らして、適切な統計的手法が選択されているか。

G 分析結果

- (1) 分析結果の解釈は適切に行われているか。
- (2) 分析結果及びその解釈から政策的含意を導き出せているか。

政策提言**H 問題意識と提言の整合性**

- (1) 挙げられた問題意識と提言内容との対応がとれているか。
- (2) 提言が現状分析・独自分析(計量分析・アンケート調査・フィールドワークなど)の結果に基づいて記述されているか。

I 政策の効果が定性的・定量的に示されているか

- (1) 関連する個人や組織に対する政策の影響の方向性が議論されているか。
- (2) 政策の定量的な影響が示されているか。

J 政策提言の実現可能性

提言内容が政策においての実現可能性を十分に吟味したものであるかを評価。

- (1) 費用・便益の観点からの妥当性が評価されているか。
- (2) 現実に起こりうる障壁、制度上の支障等を踏まえ、各課題と向き合っているか。

※ただし政治的な実現可能性は考慮しないこと

3. 論文評価基準

表2 学術論文としての形式、問題分析・現状分析、分析における（項目 A～J）評価基準

点数	基準
6	十分満たされている
5	ほぼ満たされている。
4	大きな瑕疵はない。
3	欠けている部分がある。
2	欠けている部分が多い。
1	全く満たされていない。

4. プレゼンテーション評価項目

プレゼンテーション (20点+20点)

①20点内容：発表内容についての審査点

主に、上記の論文審査項目で採点していただき、60点を圧縮し、20点で採点。

表3 【現状分析と先行研究】 【分析（手法と結果）】 【政策提言】

		評価項目	点数（すべて4点満点）
現状分析	1	現状分析を通して、何が問題なのかを明らかにしているか。また、先行研究のレビューに基づいて、論文の位置づけ・独自性が述べられているか。	
分析	2	現状分析と先行研究のレビューに基づいて、分析の枠組み、検証すべき仮説等が適切に設定されているか。	
分析	3	分析に使用するデータ、推定方法が適切に選択され、分析結果について適切に解釈されているか。	
政策提言	4	政策提言が分析に基づいて行われているか。	
	5	政策の効果が定性的、定量的に示されているか。また、政策の限界や実施に当たっての問題点等が議論されているか。	

②20点内容：発表スキル・スタイルについての審査点

(スキル 10 点+スタイル 10 点=20 点)

- (1) 発表スキル：聞き手に伝わる発表ができているか。
- (2) 発表スタイル：発表スタイルが整っているか。

表 4

	評価項目	点数(各 10 点満点)
スキル	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者の声量・音質・速度・表情等はどうか。 ・論理展開に優れ説得力があるかどうか。 ・発表内容・方法の工夫：内容は聞き取りやすかったか。 ・質問に対する対応が適切かどうか。 	
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は内容が上手く表現されていたか。見やすかったか。 (スライド・図表・文字の見易さ・各セクションとのバランス) ・資料に誤字脱字がなく、正確に記述されているか。 	

5. 減点の基準

表 5

字数制限	15,000 字を満たしていない。	-2 点
体裁不備	「最終論文提出前チェックリスト」を満たしていない。	各-2 点
提出遅れ	提出日翌日 0:00~12:00 に提出。 (~12 時間遅れ)	-5% (素点 95%)
	提出日翌日 12:01~23:59 に提出。 (12~24 時間遅れ)	-10% (素点 90%)
	提出日 2 日後 0:00 以降に提出。 (24 時間以上の遅れ)	受け取り拒否

※審査に入るため、24 時間以上の遅れでの提出は一切受け付けませんのでご了承ください。